

今後の「しめっちカフェ」について

bokashi



今年度のしめっちカフェは、道東や胆振方面で湿地に関わる人をお招きして数回ほど開催する予定です。内容が決まり次第、お知らせします。

コロナ前は、開催場所として鴨々堂をベースとしていましたが閉店してしまったため、しめっちネットの事務所が入居する貸室などで開催してきました。しめっちネットが大切にしてきた雰囲気を求めて数年ほど彷徨っていましたが、これからは**複合施設bokashi**（ぼかし、札幌市中央区南二条西1丁目7番地1 一番館ビル）を新ベースとして定期的なイベントを展開していきます。以前のように食事やお酒を楽しみながらみなさんと過ごせるしめっちカフェもやりたいですし、ワークショップや湿地や自然環境に繋がることや関わることを展開していきますので、楽しみにしてください！

編集後記

私、4月から湿地から海に一念発起?! して羽幌町地域おこし協力隊として北海道海鳥センターに勤務しています。天売島で繁殖する海鳥に関わる仕事と自然環境のコミュニティ作りになります。しめっちネットの経験も活かして羽幌町で頑張りたいと思います。皆さん羽幌町でお待ちしております。最後にしめっちカフェでは、この人の話を聞きたい、これはどういうこと？ などあればお気軽にリクエストをお待ちしています。(行方 和之 事務局長)

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めています。常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集! 一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

● 正会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。

年会費 5,000 円

● 賛助会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メンバーリストでネットワークの情報が提供されます。

年会費 5,000 円 (団体) 1,000 円 (個人)

● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



お問い合わせ・お申込み

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (しめっちネット)

✉ ishikari.wetland@gmail.com <http://ishikarigawa-net.com/>

📍 札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ星園 405 号室



しめっちネットの HP で最新情報も見てね!



石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク The Shimecchi Report ニュースレター

通信 vol.10 Sep. 2024



特集 美幌湿原

かつて石狩川下流域の平野部には、釧路湿原やサロベツ湿原をしのぐ、北海道最大の湿原がありました。4~5千年もの歳月をかけて形成された広大な湿原は「石狩泥炭地」と呼ばれていましたが、戦後の開発によって急速に農地へと変貌し、1970年代までにその99.9%が失われてしまいました。今では、月ヶ湖湿原、越後沼湿原など、数少ない小さな湿原が当時の大湿原の名残として残されるだけですが、その中でも最大の湿原が「美幌湿原」です。





特集 美唄湿原

「美唄湿原」とは、北海道農業研究センター美唄試験地に残されている湿原の通称です。美唄試験地は、大正8年(1919年)に美唄泥炭地試験地として設立され、泥炭地の土地改良や作物の栽培方法などの研究がされていました。泥炭地の湿原は、比較的栄養に富んでいて、ヨシなどの高い草が生える「フェン」と、栄養に乏しくてミズゴケが優占する「ポグ」に分かれますが、美唄湿原は全面がポグでした。石狩泥炭地の4割以上を占めていたポグは、泥炭層が厚く、水を含んだスポンジのような軟弱な酸性土壌で、農業には不向きです。美唄試験地は、そうした泥炭地の開発事業の推進や農業発展に大きな役割を果たしていました。

現在、試験地の敷地50haのうち約20haが湿原として残されています。かつては全面がポグでしたが、周囲を排水路に囲まれて乾燥化が進んだ結果、今では中央部のわずか2ha以外はササが優占する群落に変化してしまいました。それでも美唄湿原全体では約200種の植物が確認されており、サワラン、カキラン、トキノウなどの湿原特有の希少種、石狩平野では他に見られなくなったホロムイチゴなども生育しています。草索性鳥類の生息地とし

ても重要で、チュウヒやオオジシギも繁殖しています。

美唄湿原の乾燥化をくい止めるため、かつては遮水シートを埋めたり、農業用水で灌水するなどの研究がされてきました。しかし、継続的な保全対策には結びついておらず、湿原の乾燥化は進行しています。また、美唄湿原に立ち入るためには管理者の許可が必要ですが、無断で立ち入る来訪者の踏圧や盗掘も問題とされています。

美唄試験地は、現在その研究上の役割を終え、職員は在駐していません。こうした土地は通常は売却に出されるため、今後の管理体制が危惧されています。美唄湿原は、石狩泥炭地の原風景を今に残す自然遺産として、また、石狩泥炭地の開発に多大な貢献をもたらした泥炭地試験地の産業遺産としても非常に重要な価値を持っています。かつて不毛の地として農地に転換された湿原ですが、水害の緩和、炭素の吸収と貯蔵、教育やレクリエーションの場など、今では数多くの恵みをもたらす場所として認識されています。美唄湿原も、今後効果的に保全と再生を進めることで、多くの恵みをもたらす北海道の宝物となることでしょう。

大富原野の森

宮島沼の東側には、かつて大富原野と呼ばれた湿原がありました。原野は戦後の開発で消失してしまいましたが、原野を横切るように造成された防風林には、今でもゼンテイカ、カキツバタ、コバギボウシ、サワギキョウなどの湿生植物が多く生育しています。しかし、防風林の更新作業のため、樹木の伐採と植樹が行われたことで、開かれた環境を好むオオアワダチソウなどの外来植生が繁茂してしまうことが予測されたため、管理者である森林管理署の許可をいただいて毎年5月から7月にかけて外来植物の抜き取り作業を行っています。

最近では参加者も減少気味ですので、ゼンテイカが咲き誇る防風林を後世に残すため、ぜひ保全作業へのご協力をお願いします。



report

知って欲しい！浜厚真の貴重な生き物たち 浜厚真イキモノブース2024

なんにもないから、たくさんいる？ 浜厚真の海岸線には、一見なんにもないような広大な草原が広がっています。しかし、そこには砂浜、砂丘、砂丘間湿地、海岸草原など多様な環境が含まれ、様々な生き物が暮らしています。浜厚真海岸は、今では辺り一帯に唯一残された、幅広い自然の海岸線となっています。

浜厚真では、大阪ガスの子会社によって大規模な風力発電事業が計画されています。しめっちネットでは、2021年に市民参加型の生き物調査「浜厚真BioBlitz」を行い、972種類の生き物を記録しました。その内、絶滅のおそれのある希少種は80種にものぼり、浜厚真の自然の重要性が浮き彫りになりました。

2022年からは、海岸利用者や地域のみならず浜厚真の自然の魅力と価値を知ってもらうため、さまざまな生き物の展示解説を行う「イキモノブース」を始めました。3回目となる今年は、サーフィンの大会「厚真町長杯」にあわせて行われるマルシェ型のイベント「Meet Up Atsuma」の中でブースを設置させていただきました。雨天の中、多くの方にブースを訪れていただき、専門家によるガイドツアーも大好評でした。

今年8月には浜厚真の風力発電事業の環境影響評価準備書が公開され、チュウヒもタンチョウも繁殖する海岸草原に風車が立ち並ぶことがいよいよ現実味を帯びてきました。一方で、イキモノブースの活動によって、海岸利用者や地元住民の方々にも浜厚真の自然への理解と関心が少しずつ広がってきています。



report

湿地の生活文化を未来に しめ縄奉納

湿地の減少とともに消失の危機にあるスゲ縄の文化を見直す目的で、石狩川流域に残るカサスゲ群落を探して刈り取り、皆でメ縄づくりをしています。前号の表紙を飾った石狩川の河畔で採取したカサスゲで編んだメ縄は、4月3日、美唄市の宮島沼近くの大富神社に奉納させていただくことができました。この地域でもかつては、カサスゲを採取してメ縄を奉納していたものの、スゲの生育地の消失と担い手の減少のため、10年前からプラスチック製のしめ縄がかけられるようになりました。大富神社の金色の鳥居に、皆で編んだメ縄が掛けられ、宮司さんや総代さんはじめ氏子さん達と奉納させていただき、感激でした。

今年は、近くの石狩川河畔で見つけた群落からカサスゲを採取・乾燥させて、地域の方々ともメ縄を編んで奉納する予定です。



美唄湿原フォーラム2024
2024.10/19
13:00~15:30
美唄市民会館
知る人ぞ知る 美唄のお宝を語り尽くす!

美唄湿原フォーラム2024 ~ナニソレ? ビバイシツゲン!~

美唄市の主催で「美唄湿原フォーラム2024 ~ナニソレ? ビバイシツゲン!~」を開催します。美唄湿原の価値と魅力、そして現状について多くの方に知っていただき、今後の方向性について議論できればと思っています。市町村として湿原を所有している黒松内町(歌才湿原)と登別市(キウシト湿原)の関係者にもいらしていただき、それぞれ湿原の保全と活用の取り組みについてご紹介いただきます。

2024年10月19日(土)13時から美唄市民会館で開催しますので、ぜひご参加ください!ライブ配信も予定しており、午前中は普段は立ち入りが制限されている湿原の現地見学会も実施します。

しめっち 会員紹介

いしかり海辺ファンクラブ

「いしかり海辺ファンクラブ」は石狩海岸の自然が大好きな仲間たちが、その自然を楽しみ、守り、観察し、伝えていく活動を多彩なフィールドで展開しています。環境省が進める生物多様性の基礎データ収集を目的とする「モニタリング1000里地植物調査」、植生自然度10の貴重な植生エリアである海岸草原の海浜植物保護を目的に「海辺パトロール」、石狩湾岸の生態系を捉えたとき、海への視点も極めて重要との観点から「海洋プランクトンと渚の生物観察」、広範囲での自然観察として「銭函から聚富海岸」の自然観察会などの月例活動、さらに国際海岸クリーンアップ活動への参加、積雪期には海岸林スノーシューウォークなど、地道に活動を継続中です。

